

— 目 次 —

<特集>

青少年を伸ばそう

- ♣ 青少年育成県民会議がめざすもの…… 8
- ♣ 子どもたちと過ごす楽しい一日 ……15
- ♣ 要保護児童の対策 ……16
- ♣ よい映画で豊かな情操を ……27
- ♣ ユースホステルの一日 ……29

ル 求

- 1. 御船町の香風子ども会 ……10
- 2. 水俣市ポプラ子ども会 ……28

家庭における親子・甲斐 直義 ……30

<ここに人あり>

ある 里 親 ……25

□ 児童福祉司の手帳から ……26

青年の目

- 1. 東南アジアをめぐる ……34
- 2. 希望に満ち南欧諸国 ……35

★ずいそう★

有村 春男・藤間勤太女・荒木 茅生

★くまもとの明治百年(その5)

熊本出の二大功臣・山口 白陽 ……36

★グラビアページ★

風雪に耐えて・青少年を正しく強く・

県政ハイライト・くまもとカメラスケッチほか

★センターカラー……天草キリシタン館<本渡市>

★表紙……少年の日



三四郎は生きている

白線帽のバンカラ学生——第五高等学校はある意味では熊本の一つの誇りでもあった。五高の前身「第五高等中学校」が城内古城に創立されたのは明治20年(1887)であった。明治22年黒髪町に赤煉瓦の新校舎が完成して移転、明治27年の学制改革で「第五高等学校」となった。以来明治、大正、昭和と時代の激流のなかで、独特の学風を守りながら、幾多の英才を世に送ったのである。

戦後の学制改革では「熊本大学」となり旧五高あとの校舎には法文学部などが設けられた。

五高時代は男子学生ばかりで、じつに「男くさい」いわゆる「三四郎」たちの学園であったが、熊本大学になってからは「男女共学」で、いまではミニ・スカートの女子学生と男子学生が仲良くクスの木蔭で語り合っている姿もみられる。時代の変遷というものであろう。

しかし私たちは国道57号線を通るとき、黒髪町にさしかかると、赤煉瓦の門と校舎を必ず見る。そのたたずまいに歴史の重さというものを感ずる。

そして、そこに新しい学生たちが、次の時代のために出、入っているのである。

緑蔭で憩う男女学生の姿も和やか



上・昔のままの赤煉瓦の門、自転車の学生群が印象的。



上・なつかしい明治調の建築物…法文学部のたたずまい。

下・立田山から見た熊大の全景。

